

課題5 . 子どもの保健と医療の連携システム

活動項目	活動項目別の実績(概要)
実施活動	<p>1. アレルギー予防事業</p> <p>(1) 一般県民に対する知識の普及啓発</p> <p>アレルギー連続講座(5回コース) 延べ428人</p> <p>6/26 第1回 アトピー性皮膚炎の治療 138人</p> <p>7/24 第2回食物アレルギーについて 119人</p> <p>10/2 第3回喘息の治療 51人</p> <p>11/27 第4回住宅環境とアレルギー 59人</p> <p>1/22 第5回食生活とアレルギー 61人</p> <p>(2) 研修会(専門家)</p> <p>アレルギー疾患研修会 87人</p> <p>2.聴覚障害セミナー 169人</p> <p>3.地域保健医療連携支援事業</p> <p>(1) 地域保健医療連携支援研修会 延べ178人</p> <p>(2) 在宅支援連絡会 4回</p> <p>在宅にむけコーディネートに必要なケースについて、病棟から連絡を受け病棟カンファレンス) 関係者を集め実施。主治医、担当看護師、MSW、担当保健師、訪問看護ステーション、居住地域の保健師、施設職員等の関係者が参加。</p>
教育・研修	<p>1 アレルギー疾患研修会(栄養士、保健師等の保健機関関係職員) 87人</p> <p>7/5 子どものアレルギー疾患 アレルギー科医師</p> <p>食物アレルギーを中心にー</p> <p>食物アレルギーの栄養指導 栄養士</p> <p>2 地域保健医療連携支援研修会(保健師等の保健関係職員)</p> <p>11/25 視覚健診について 59人</p> <p>11/25 乳幼児の聴覚検診について 59人</p> <p>12/13 小児の膠原病について 30人</p> <p>2/6 小児の喘息について 30人</p> <p>乳幼児期の気管支喘息の特徴と「早期介入について」</p>
保健・医療相談	<p>アレルギー疾患は増加傾向であるが、子どものアレルギーの専門医は少ない。医療を受けている患者の中には、現在の治療等に不信感を持っている場合も多い。スタンダードな治療について、知識の普及・啓発をし、問題解決行動に導けるよう支援。セカンドオピニオンを希望するものも多い。</p> <p>アレルギー疾患(アトピー性疾患、喘息等)の子を持つ母は、スキンケア、発作時の対応、除去食、環境整備など子育ての負担が大で、虐待のケースである事もしばしばあり、地域と連携が重要である。</p>

事業項目ごとの評価：子どもの保健と医療の連携システム

活動企画担当者の総括

医療部門との連携により、最新の医療情報や乳幼児の視聴覚検診の知識や技術を得ることを目的に、概ね2ヶ月に1度のペースで研修会を実施した。参加者のアンケートでの評価はほぼ良好であり、今後、実践的な方法を取り入れながら継続的に実施していきたい。

<p>課題解決のために 設定した活動項目名</p>	<p>1 アレルギー連続講座 2 アレルギー研修会 3 聴覚障害セミナー 4 地域保健医療連携支援研修会 5 在宅支援連絡会</p>
<p>実施した活動の概要</p>	<p>1 アレルギー連続講座（5回） アレルギーに関する知識の普及・啓発と相談会 2 聴覚障害セミナー 医療部門の企画に協力して実施 聴覚の発達、スクリーニング、聴覚リハビリテーションの実際を紹介 3 教育・研修 ・アレルギー疾患研修会 ・地域保健医療連携支援研修会 4.在宅支援連絡会 退院を前に地域の支援ネットワークの確認と在宅で必要な医療情報や看護技術等を学ぶ場としてのミーティングを開催。主治医、担当看護師、MSW、担当保健師、訪問看護ステーション、居住地域の保健師、施設職員等の関係者が参加。 ミーティングケース ・腹膜透析をしている患児 3件 ・重症アトピー性皮膚炎（スキンケア） 1件</p>
<p>評価の方法・手段</p>	<p>参加者数 研修習熟度アンケートの結果集計</p>

評価の概要

1. 有用性
 a. 数値目標等の達成度
 参加状況

研修名	参加者数 (人)	参加した市 町村数	参加した保 健所・支所 (県)数	その他 の機関
アレルギー疾患研修会	87	48	12	0
視覚健診	59	46	0	0
乳幼児の聴覚検診	59	45	0	0
小児の膠原病について	30	14	6	1
小児の喘息について	30	24	4	
アレルギー連続講座 1	138			
アレルギー連続講座 2	119			
アレルギー連続講座 3	51			
アレルギー連続講座 4	59			
アレルギー連続講座 5	61			
聴覚障害セミナー	167			

アレルギー疾患研修会については、55%の市町村、52%の保健所・支所から参加。

視・聴覚検診については、52%の市町村から参加、保健所の参加はなかった。

小児の膠原病については16%の市町村、26%のから参加。

小児の喘息については27%の市町村、5%の保健所から参加

- b. 愛知県の母子保健への貢献

アレルギー疾患は増えており、治療、将来に対する不安を抱えている人への支援

乳幼児視聴覚検診の精度の維持

小児疾患に関わる最新医療情報を保健活動の中で活用できる

2. 問題点

一般県民への知識の普及啓発のための講演会は、ニーズも高く、個々が保健問題を解決する上で直接的に役に立つと思われるが、NPO 団体等も実施しているので、主催者に協力という姿勢で支援したり、医療情報の普及、啓発についてはホームページを活用するなどに対応することが可能なのではないかと。

3. 事業継続に関する意見

乳幼児視聴覚検診等の知識や技術、最新医療情報を学ぶ場として、定例的に実施していく事は有意義であると思われる。

研修会実績と評価(1) アレルギー疾患研修会

実施日時	平成14年7月5日(金) 午後1時30分から午後4時20分
講師	当センター アレルギー科医師 伊藤浩明 同 栄養士 山村浩二
講演主題	子どものアレルギー疾患 食物アレルギーを中心にー 食物アレルギーの栄養指導 当センターにおける食事指導の実際からー
参加者数	87名 (保健師、栄養士等)
講演内容	<p>講演内容</p> <p>[子どものアレルギー疾患 食物アレルギーを中心にー]</p> <p>アレルギー疾患の成り立ち</p> <p>免疫機序に関わる発生メカニズム</p> <p>アレルギー疾患における血液検査の意味</p> <p>食物アレルギーの診断</p> <p>食物除去テストの意味</p> <p>経口負荷試験の意味・目的</p> <p>卵アレルギーの特徴とアレルギー負荷テスト、その適応</p> <p>牛乳アレルギーの特徴</p> <p>小麦、米アレルギー</p> <p>除去食療法のすすめかた</p> <p>[食物アレルギーの栄養指導 当センターにおける食事指導の実際からー]</p> <p>アレルギー疾患児の栄養相談における特色</p>

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート評価 アンケート回収数：83 枚（回収率 95.4 %）

研修会名	アレルギー疾患研修会					
研修者の職種	保健福祉機関：保健師 人、家庭相談員 人、事務職員 人 その他：看護師 人、保育士 人 計人 87					
研修者の年齢分布	20 歳代：人、30 歳代：人、40 歳代：人、50 歳代：人、不明人					
研修者の性別	女性：人 男性：人					
アンケート質問項目		1 よい	2	3	4	5 わるい 不明
	1. 研修全体のプログラムは？	42(50.6%)	27(32.5)	14(16.9)	0(0)	0(0)
	2. 講義の内容はよく理解できましたか？	27(32.5)	38(45.8)	16(19.3)	2(2.4)	0(0)
	3. 視聴覚教材の使用は講義の内容理解に役立ちましたか。	44(53.0)	29(34.9)	7(8.4)	3(3.6)	0(0)
	4. 当センターにおける食事指導の実施をもとに、地域の指導で活かそうな事はありましたか。	43(51.8)	6(7.2)	12(14.5)	4(4.8)	7(8.4) 11(13.3)
	5. 食物アレルギーの方から検診や面接等で相談された事がありますか。 1 あった 2 なかった 5 わからない	51(61.4)	2(2.4)	3(3.6)	0(0)	27(32.5)
	6. 質問 5 であると答えた方に、医療機関にかかってなかった相談者はありましたか。 1 あり 5 なし	26(31.3)	0(0)	27(32.5)	0(0)	7 23(27.7)
	7 食物アレルギーの方（医療機関管理中）の支援にあたり、主治医と連絡を取り合うことはありましたか。 1 あった 2 なかった（なぜ）	11(13.3)	1(1.2)	1(1.2)	0(0)	61(73.5)
	8 食物アレルギーの方（医療機関管理中）の支援で、主治医以外の関係機関と連携しているケースはありましたか。	7(8.4)	0(0)	1(1.2)	0(0)	69(83.1)
	9 アレルギーに関する研修会で今後取り上げてほしいテーマはありますか。 1 ある 2 ない	33(39.8)	0(0)	1(1.2)	0(0)	24(28.9)
10 今回の研修会は平日の開催で下が、いかがでしたか。 1 平日でよい 3 土曜日がよい 5 どちらでもよい	57(68.7)	0(0)	8(9.6)	0(0)	15(18.1)	

その他意見の概要

4.1)ある(内容) 地域の指導で活かせる

ドクターの方針にもよるが住民がうまく情報の選択ができるように援助するための知識となった 3人

アレルギー用食品、ミルクの事、治療・生活について

マタニティ教室でのアレルギーの質問や乳児の指導に活かせる

除去食にすると脂質が少なくなる

予防接種とアレルギーの関係について

除去テスト、除去食解除の方法等

アレルギー検査の時期について 2人

栄養の偏りについて

Q & Aの冊子

検査の勤める時期 2人

原因把握の勤め等

除去と代替の食事

ブリックテストの推奨

医療機関の紹介

血液検査の意味と結果

安心できる指導

9.1)ある(内容) 取り上げてほしいテーマ

なかなかうまく医療に乗らない人に対して保健師ができる事、事例検討

予防接種の対応、血液検査の見方と指導方法

アトピー性皮膚炎、学校でのアレルギー対策

他のアレルギー 接触性皮膚炎など

具体的指導と方法など

妊婦とアレルギーについて

除去食をどのように変更すればよいか

スキンケアの実際

食事療法、指導

治療と日常生活

除去した際のメニュー例、その栄養価

回転食、代替食品

アレルギーの性疾患の子どもたちの精神的な支援のあり方

調理実習

食物アレルギーの詳細

経口負荷つとについてもっと詳しく

事例研修

研修会実績と評価(1) 地域保健医療連携支援研修

実施日時		平成14年11月25日(月) A 午前9時30分から午後0時30分 B 午後1時30分から午後4時30分
講 演 会	講 師	A 当センター 視能訓練士 川瀬芳克
		B 当センター 耳鼻いんこう科部長 荒尾はるみ 同 言語聴覚士 中山博之
	講演主題	A 視覚健診の目的・方法・効果 B 乳幼児の聴覚健診について
	参加者数	A・Bともに59名(保健師等) 延べ118件
講演内容の要旨 A 視覚健診の目的・方法・効果 1 視覚の発達 視力の発達について 2 立体視(両眼視機能)の発達 3 視力について 4 弱視、斜視と視覚検診 5 家庭におけるアンケートの目的・実施上の要点 B 乳幼児の聴覚健診について 乳幼児の聴覚の発達とスクリーニング検査 1才6ヶ月児の聴覚スクリーニングについて 当センターの聴覚検査の実際及び聴覚検査室の見学		

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート評価

出席者 59人 アンケート回収数：59枚(回収率 %)

研修会名	地域保健医療連携支援研修会(視覚・聴覚健診について)					
研修者の職種	保健機関：視覚健診 保健師59人 聴覚健診 保健師59人 延べ118人					
研修者の年齢分布	20歳代：人、30歳代：人、40歳代：人、50歳代：人 60歳代：人、不明人 計人					
研修者の性別	男性：人 女性：人					
アンケート質問項目		1 よい	2	3	4	5 わるい
	1 研修会プログラムはどうか	34(57.6%)	18(30.5)	5(8.5)	0(0)	0(0)
	2 視覚健診に理解できたか	23(39.0)	26(44.1)	2(3.4)	1(1.7)	1(0)
	3 3歳児視覚健診についてお困りの事はあるか 1 ある (なに) 5 ない	30(50.8)				20(33.9)
	4 乳幼児の聴覚健診について理解できたか	17(22.8)	23(39.0)	15(25.4)	0(0)	0(0)
	5 3歳児聴覚健診について現場でお困りはないか 1 あり 2 なし	23(39.0)				25(42.4)
	6 1.6時健診で聴覚健診は実施しているか 1 はい 5 いいえ(なぜ)	16(10.2)				52(88.1)
	7 1.6でない場合 1 次年度予定ある 3 予定内 5 わからない	1(13.3)		32(54.2)		19(32.2)
	8 3歳児検診時の年齢 1 誕生月 3 誕生日の月 5 わからない	15(25.4)		29(49.2)		12(23.3)
	9 今後取り入れてほしい内容 1 あり 5 なし	48(68.7)				18(30.5)
	10 曜日は 1.平日通いがよい 2.土曜日がいい 3.どちらでもいい	48		1(1.7)		10(16.9)

その他感想

3.1)ある(何が) 視覚健診	
ドクターにより精検の出し方に差がある	1
検査にのれない子が多いため、健診の場で再検査に時間がかかる	2
3歳6ヶ月でのフォローがなかなかできていない	5
その後の検査が家で行われているか分からない	4
検査をやれない場合に指導しにくい(外国人)	1
何かある、これは大丈夫という判断	2
多動の児に対して家でも健診でもなかなかうまくできないケース	1
発達の遅れがある児に対する視力検査	1
外国人の対応	1
家でやってこない児が多い	6
精検を最後にまわすので早く帰りたい親があり落ち着いてできない	1
片目を隠す方法が難しい	1
精検対象としても親の判断で受診しない人が多い	2
待ち時間が長くてぐずってしまう児が多い	1
検査の必要性が伝わらない	2
受診者数が多いとじっくりと検査できない	1
開業医へ送っても経観のみで返ってくる事が多いが不安	1
5.1)ある(何が) 聴覚健診	
外国人の対応	4
外国語版のアンケートだけでも県下統一のものを作って欲しい	2
外国人に対して2次無理 精検としていいのか	1
落ち着かない	1
何かある、これは大丈夫という判断	1
家でやってこない児が多い	1
母親があまり心配していないと精検にまわりにくい	4
精検を最後にまわすので早く帰りたい親があり落ち着いてできない	1
ささやき声の出し方	1
MRのある児のどこまで聴覚異常を疑うか	1
会場でやる場合、場所の確保が難しい	1
ADHD等で集中できず検査ができない場合	1
6.1)はい(困り事) 1.6聴覚健診	
待ち時間が長くてぐずってしまう児が多い	1
母親があまり心配していないと精検にまわりにくい	1

9.1)ある(内容) 地域保健医療連に取り入れて欲しい内容

携支援研修

い内容

PDD、LD、ADHD等

低身長について

高機能PDD児の療育システムについて・発達障害児の療育体制のあり方

言語訓練の実際

アスペルガー児、自閉症について

乳幼児健診における精神発達面の見方について

医師に対しての視覚・聴覚を含めた乳幼児健診の研修会

発達障害の親へのフォロー、指導

コミュニケーション能力障害のフォロー状況やあいち小児保健医療総合センターの活用法について

児童精神科領域の乳幼児の発達について

虐待関連

思春期関連

言語障害と精神障害の区別の仕方、どのように判断をして関わっていくか

視能訓練士、言語聴覚士等専門スタッフの地域への派遣、現場で指導して欲しい

乳児の母斑や血管腫の治療方針など

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート調査

出席者 30人 アンケート回収数：27枚（回収率90.0%）

研修会名	地域保健医療連携支援研修（小児の膠原病について）					
研修者の職種	保健師（19人） 医師（2人） 看護師（8人） 薬剤師（1人）					
研修者の年齢分布	20歳代： 人、30歳代：人、40歳代： 人、50歳代： 人 60歳代： 人、不明人 計 27人					
研修者の性別	男性： 人 女性： 人					
アンケート質問項目		1よい	2	3	4	5わるい 不明
	1.プログラムはどうか	18(66.7%)	7(25.9)	2(7.4)	0	0
	2.小児膠原病の特徴について理解できたか	13(48.1)	10(37.0)	4(14.8)	0	0
	3.小児膠原病に関する治療について理解できたか。	12(44.4)	9(33.3)	5(18.5)	1(3.7)	0
	4.看護の立場からの話は参考になったか	7(25.9)	9(33.3)	5(18.5)	0	1(3.7) 4(18.5)
	5.外来を訪れる患者家族の抱える心配や不安が深まったか	10(37.0)	6(22.2)	5(18.5)	1(3.7)	1(3.7) 4(14.8)
	6.今までにかかわりがあったか 1はい 5いいえ	10(37.0)				16(59.4) 1(3.3)
	7.6ではいい方、かかわりで困った事があったか 1はい 5いいえ	9(70.4)				1(63.0) 17(63.0)
	8.7ではいい方、最も困った事は 1知識の不足 3専門機関が近くにいない 5その他	7(25.9)				1(3.7) 19(70.3)
	9.さらに膠原病について学びたい事は 1はい 5ない	19(70.4)				3(11.1) 5(18.5)
10.地域保健医療連携支援研修会で 取り上げてほしい事 1ある 5ない	7(25.9)				6(22.2) 14(51.9)	
健診時、母がよく記入される事で、よく熱を出す、関節を痛がる、習慣性流産等、積極的な支援、情報提供をしていきたい。						

治るという事に本当に驚きました。子どもの病気もいろいろあると思いました。
外来の診察が今日の話でやっと理解できた。今後も理解を深め、患者への対応を考え、対応していきたい。

分かりやすく子どもの生活を考えられた。暖かい話が聞け、参加してよかった。
映像使って講義していただけるともっとよく分かったと思う。

小児膠原病について知る機会がなかったので実際の症例を聞き理解が深まった。

9 . 1)

小児膠原病についてさらに学びたい事

薬物療法、看護、リハビリテーション

家族の援助方法調査内容と結果、治療内容、患者さんに対する説明の仕方

病気自体をより学習したい

子ども、家族の受け止め、心理など

日ごろの生活の様子、患者会の人のお話を聞いてみたい。

病気と実際の生活と付き合い方

10 . 1)

小児の難病 網膜色素変性症等

保険制度、社会保障制度

小児における家族会の声、ネットワークの実際

循環器疾患

小児の精神発達、疾患について、広汎性発達障害について

子どもの心のケアについて

虐待、育児不安の強い母への援助方法について

研修会実績と評価(1) 地域保健医療連携支援研修

実施日時		平成15年2月6日(木)午後1時30分から午後3時30分
講 演 会	講師	当センター アレルギー科医師 森下雅史
	講演主題	小児の喘息について 乳幼児期の気管支喘息の特徴と「早期介入」についてー
	参加者数	(職種) 保健機関：保健師 30名
	講演内容の要旨	
	<p>気管支喘息の基礎知識</p> <p>病態</p> <p>有病率 発症 5から7%(20年前 1~2%)</p> <p>問題 重症な子は減ったが、喘息死は減らない 死亡数5000~6000人(年間)</p> <p>治療</p> <p>乳幼児期の喘息の特徴</p> <p>乳児喘息について</p> <p>Early Intervention「早期介入」の必要性</p> <p>治療</p> <p>発作時の対応</p> <p>今後の課題</p>	

研修会実績と評価(2) 研修者によるアンケート調査

出席者 30人 アンケート回収数：28枚（回収率93.0%）

研修会名	地域保健医療連携支援研修（小児の喘息について）					
研修者の職種	保健師 29人 看護師 1人					
研修者の年齢分布	20歳代： 人、30歳代：人、40歳代： 人、50歳代： 人 60歳代： 人、不明人 計 27人					
研修者の性別	男性： 人 女性： 人					
アンケート質問項目		1よい	2	3	4	5わるい 未記入
	1.プログラムはどうか	16(67.9%)	9(32.1)	3(10.7)	0	0
	2.小児の喘息の特徴について理解できたか	16(67.9)	12(42.9)	0	0	0
	3.小児の喘息の治療について理解がふかまったか	16(67.9)	11(39.2)	1(3.6)	0	0
	4.早期介入にむけ、保健指導に役立つそうか	10(35.7)	15(56.6)	3(10.7)	0	0
	5.今までに患者家族との関わりあったか 1はい 5いいえ	11(39.2)				17(60.7)
	6.はいの課アトピー性皮膚炎他、かわりで困った事はあったか 1はい 5いいえ	8(28.6)				2(7.1) 18(64.3)
	7.6ではいの方、最も困ったことは 1知識不足 3専門医が近くにいない 5その他	8(28.6)				1(3.6) 19(67.9)
	8.さらに小児喘息について学びたい事は 1はい 5ない	15(53.6)				9(32.1) 4(14.3)
	9.地域保健医療連携支援研修で取り入れて欲しい内容は 1はい 5ない	15(53.5)				9(32.1) 4(14.8)
10.平日の開催であったがどうか 1平日でよい 3土曜日がよい 5どちらでもよい	24(85.7)		1(3.6)		2(7.1) 1(3.6)	
その他 感想	<p>専門リストがあるとうれしい。</p> <p>自分自身も大変な思いをしてきた。人格形成にも影響を及ぼす事があったと思うので、生活が障害を受けても健全な心が育てられるようなサポートがとても大切であると思った。</p> <p>古い知識しかもっていなかったなので、大変参考になった。まだ、経験のない喘息についていろいろ知</p>					

る事ができました。

地域の中で保健職に従事している勤務場所の一つに保育所がある。保健センターから紹介してもらい参加したが、他の市町村の保育園の方は実施について知らなかった。県下の保育園にも（児童課）にも教えていただくと嬉しいです。

分かりやすかった。

場所を離れると薬に関する知識が不安になったりするので資料がいただけてうれしい。

なかなか時間がなくて本日初参加でしたが、自分のためになる研修でした。また、参加したい。

今の治療についてとてもよく分かった。日々変化している治療に私たちも知識をもっていなければ保健指導はできないことがわかりました。さらに具体的な保健指導の方法を学べると良かった。時間はもっと長くても良かった。

健診、アレルギー相談の場で指導に役立てることができる。

8. 1) さらに小児喘息について学びたい事

啓蒙活動の具体的な方法

専門機関の見分け方

メンタルの面でのフォロー事例を多く知りたい。

短時間で理解不足な面もあるのでもう一度振り返って学んで行きたい。

喘息とアレルギーの関係

早期対応、発作の対応

具体的な事例

事例を通して経過を学びたい

日常生活における鍛錬

アトピー性皮膚炎、花粉症等アレルギー性疾患関連の事

9. 1) 今後地域保健医療連携支援研修に取り入れて欲しい内容

自閉症、ADHD の患者家族とのかかわりについて

精神発達について

ダウン症、

自閉症 3

ネフローゼ

病児、親のカウンセリング

思春期保健に関する内容

アレルギー疾患 4

アトピー性皮膚炎、食物アレルギー

子どもの発達

視力聴力検査